

宮 城 県 現代俳句協会

N E W S

2023. 7 No.48



「子ども」の目

小田桐妙女

(陸)

先日、初めて仙台文学館を訪れ、特別展「いわさきちひろの世界 ピエゾグラフィ展」を観てきた。五年ほど前、夫の転勤に伴い青森県弘前市から宮城県塩竈市にやって来た。その時にちょうど文学館で「ことばの祭典」の開催があり、参加する予定だったのだが、引越したバタバタで行けなくなつた。それ以来訪れないままであつた。初めての文学館は想像以上に楽しかった。地下鉄南北線の台原駅で降り、台原森林公園内を歩いて目的地へと向つた。このあかまつ道経由がとてもよかつた。沢山の種類の樹木に看板が付き、「この樹木の名前は？」とクイズ形式になつていて、プレートをめくると答えがわかるようになっていた。鶯や聞いたことのない鳥の声も聞いた。木漏れ日も降り注ぎ、ただただ気持ちよかつた。時々、深呼吸をして、緑色の空気を思いっきり吸いこんだ。いわさきちひろ展は、入り口の「母の日」でウルウルしてしまつた。それほど思い入れのある作家ではないのだが、幼い頃から彼女の作品は目にしてきたし、自然と自分に溶け込んでくる作家である。今回、初めていわさきちひろの生涯を知つた。淡くやさしい水彩画から抱いていた印象とはまた別のちひろがいた。初めの夫と勤務地である満州・大連に渡るが、夫の自殺により帰国。その後、日本共産党に入党、人民新聞の記者として働くが、原発性肝臓ガンのため五十五歳の若さで亡くなつた。ちひろの父親は陸軍の建築技師、母親は大陸の花嫁（太平洋戦争中、満州開拓移民に嫁いだ女性）を送り出す仕事に就き、両親ともに国策に協力する立場であり、当時としては恵まれた生活を送つていたという。戦後、自身の様々な戦争体験から「二度と戦争をしてはならない」と強く決意し、平和な世界の実現を願つた。ベトナム戦争をテーマに描いた絵本は二冊あり、『戦火のなかの子どもたち』は、最後に完成させた絵本である。ベトナム戦争の終結を知ることなく、いわさきちひろは他界した。あの柔らかな色彩に包まれた絵は、いわさきちひろのそういつた体験からくるものなのかと感じた。帰り際、平和絵はがきセットを買つた。売上の一部が、ウクライナの子どもたちに届けられるそうだ。また、機会があれば訪れたいなと思つている。台原森林公園の樹木の名前をコンプリートしたい。近々仙台市内へ引越す予定である。単身赴任から夫が戻り、なんと、三年ぶりの同居である。まだまだ青森県民性の抜けない私ですが、これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

子どもの日戦火のなかの子ども目 小田桐妙女

令和五年度 宮城県現代俳句協会総会

令和五年三月二十六日、仙台市生涯学習支援センターにて、平成三十一年三月十日以来、四年ぶりの開催となった。渡辺誠一郎会長より、現代俳句協会の法人化に伴い当協会が任意団体となった説明があり、現代俳句協会とともに会員の更なる発展を目指したいと挨拶をいただいた。令和五年三月末日限りの会員数九十一名のうち、二十三名の参加をいただき、全員の承認による決議を得た。総会終了後、席題による句会を行った。

第一号議案 令和四年度事業報告

- 1 会報発行（NEWS）四十六号（六月）、四十七号（二月）
- 2 吟行会 新型コロナウイルス感染症防止のため中止
- 3 研修・句会 四月、八月 ネット句会研修（仙台アエル）、句会
新型コロナウイルス感染症防止のため中止
- 4 定時総会（令和四年三月二十七日、東北エレクトロンホール宮城）
新型コロナウイルス感染症防止のため書面決議
- 5 第三十六回現代俳句東北大会（令和四年九月十八日、仙台市）
新型コロナウイルス感染症防止のため、事前投句のみの開催
木山幸子氏の記念講演を動画配信

第二号議案 令和四年度会計決算・監査報告 下記の通り

第三号議案 令和五年度事業計画案

- 1 会報発行（NEWS）四十八号（六月）、四十九号（十二月）
- 2 吟行会 五月、十月実施予定
- 3 研修・句会 八月、研修会 二月、句会 各実施予定
- 4 定時総会 令和五年三月二十六日開催予定
- 5 第三十七回現代俳句東北大会
令和五年九月十七日、福島市にて開催予定

第四号議案 令和四年度予算案 下記の通り

第五号議案 役員改選案

- 顧問 高野ムツオ、鈴木八洲彦、中村孝史
 会長 渡辺誠一郎
 副会長 成田一子、宮崎 哲
 幹事長 坂下遊馬
 幹事 浅川芳直、大久保和子、小田島渚、菊池修市、佐々木和子、鈴木三山、関根かな、高橋彩子、嶺岸さとし、吉沢美香
- 会計 丸山みづほ 監事 中村 春、星 節子

令和5年度予算案

<収入の部> (単位:円)			
項目	令和4年度 決算額	令和5年度 予算額	備考
前年度繰越金	417,448	429,948	
地区助成金	147,740	180,000	100名×1800円
総会後句会参加費	0	30,000	30名×1000円
吟行会・研修会参加費	15,000	30,000	30名×1000円
雑収入	5,300	0	
合計	585,488	669,948	

<支出の部> (単位:円)			
項目	令和4年度 決算額	令和5年度 予算額	備考
総会費	0	10,000	
会報費	95,809	100,000	年2回発行
負担金	8,409	10,000	第37回現代俳句東北大会（福島県）
通信費	23,322	25,000	葉書、切手、レターパック、ヤマトメール便など
事務費	8,591	10,000	インク、コピー、封筒、宛名ラベルなど
吟行会・研修会補助費	14,879	30,000	年2回、賞品、懇親会補助
顕彰費	3,330	10,000	大崎俳句大会、塩竈ジュニア俳句大会
交通費	1,200	15,000	監査、東北大会参加交通費補助
予備費	0	459,948	
次年度繰越金	429,948		
合計	585,488	669,948	

令和4年度収支決算書

<収入の部> (単位:円)			
項目	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	417,448	417,448	
地区助成金	151,200	147,740	78名×1800円、F3分3名×1800円、30-40歳1名×540円、別途5000円助成
総会後句会参加費	0	0	
吟行会・研修会参加費	15,000	15,000	15名×1000円
雑収入	0	5,300	総会中止のため施設利用料還付金
合計	583,648	585,488	

<支出の部> (単位:円)			
項目	予算額	決算額	備考
総会費	15,000	0	新型コロナウイルス感染症防止のため開催中止。書面による決議。
会報費	100,000	95,809	年2回発行
負担金	100,000	8,409	第36回現代俳句東北大会（宮城県）の負担金
通信費	50,000	23,322	葉書、切手、レターパック、ヤマトメール便など
事務費	15,000	8,591	インク、コピー、封筒、宛名ラベルなど
吟行会・研修会補助費	16,000	14,879	F3研修会（2回）
顕彰費	10,000	3,330	塩竈ジュニア俳句大会
交通費	3,000	1,200	監査
予備費	274,648	0	
次年度繰越金		429,948	
合計	583,648	585,488	

上記決算書の各項につき監査した結果、その内容は適正と認めます。

令和5年3月12日
 監査 丸山みづほ
 監査 馬とく子

総会句会（席題「春の雨」「磯巾着」）

（高得点五句）

- 九点 防潮堤できてより磯巾着孤独
- 八点 潮騒は万のささやき磯巾着
- 七点 みみたぶのやはらかき朝春の雨
- 七点 荒縄かけ巨石は神に春の雨
- 六点 胴上げは磯巾着のごとくして

蠢いて磯巾着は眼をもたず

磯巾着を見て先生に綽名つく

「チヨーサイ」に磯巾着も踊り出し

磯巾着の巾着下げて歩きたし

軽トラがぼつんぼつんと春の雨

寅さんの四十八作春の雨

また続く貨車の長さや春の雨

春雨の匂いこくなる野辺の花

しづかなるブチャの街路や春時雨

アスファルト微熱もちたる春の雨

自由とは磯巾着の存在観

磯巾着星ひとつ消えひとつ増ゆ

春の雨内実充たす杉木立

はつかなる匂ひありけり春の雨

春の雨蓋なき魔炉の骨あらわ

美魔女なべて年齢不詳磯巾着

大窓に春の雨降る句会かな



- 菊池 修市
- 星 節子
- 大久保和子
- 小田島 渚
- 渡辺誠一郎
- 浅川 芳直
- 淺沼眞規子
- 伊澤てつを
- 日下 節子
- 黒河内玉枝
- 坂下 遊馬
- 佐々木和子
- 佐藤 みね
- 島 松柏
- 鈴木 三山
- 葛 とく子
- 高橋 薫
- 中村 孝史
- 平山 北舟
- 丸山千代子
- 嶺岸さとし
- 宮崎 哲

一 句 一 葉

夏瘦の地球人類が重すぎる
嶺岸 さとし（海原・青岬）

句に深みはありませんが、自分らしい一句だと思えます。近年の地球の疲弊ふりを想うと、地球に夏瘦せはないのでしょうか、つい「夏瘦」という季語を思い浮かべてしまいました。人新生における地球環境の劇的悪化は、私たち人類の飽くなき経済活動の結果であることは否定しようがありません。地球は筐っぶちのようです。

蓮ひらく地球の鼓動ききながら
高橋 きみゑ（青岬）

私が俳句を始めるきっかけとなったのは、「さまざまの事思出す桜かな」の芭蕉の句に出合ったことにある。花鳥風月を十七文字に詠むことに魅力を感じたものである。難しい事であるが、言葉遊びのつもりで続けてきた。水面にひらく蓮の花をみつめて……。これからは、不穏な世の中の社会現象を捉えながら、心豊かに前向きになる句を詠みたいものである。

今野勝正（波）
生返事してはつるりと心太

今、確かに何か話しかけられたが……。それどころではない！この酢と砂糖と醤油の絶妙な匂いがたまらない！そして「ところてん」のつるりとしたこの食感と喉越し！箸は二本でなく、一本がよい。青竹で拵えたものなら文句はない。本当は生返事すらしたくはない！ひたすら吸るのみである。

伊澤 てつを（小熊座）
参道は敷に返りて山桜

近くの里山に社があった。どんと祭に親と一緒に行った記憶がある。探検ごっこや部活のトレーニングで登ったこともある。しかし、いつしか神事は町の方で行われるようになり、道は笹や灌木に埋もれてしまった。近年、まちづくり協議会が別のルートで遊歩道を整備したと聞く。登れるうちに行ってみたいと思っている。

朝靄を静かに脱ぎし桃の花

伊澤 一三子 (小熊座)

ガーデニングが趣味の私は、結構庭へ入ることが多い。数年前に先輩から花桃の葉を頂いた。幼い頃親に虫刺されに桃の葉汁が良いと聞いていた。それが初めて十個の蕾をつけたのだ。幹は親指の太さで高さは五尺程。花が咲く迄わくわくだった。一週間のうち、白の八重咲きに桃色の斑入りの花が、ゆっくりと朝靄に香りを霞ませ咲いていた。

撫牛も玩具の一つ七五三

倉基 七三也 (滝)

無垢な子どもの一挙手一投足には肉親でなくても目を細めてしまう。コロナ禍に入る前の鹽竈神社境内。親の真似をしながら、子どもも撫牛に触れている。微笑ましい光景である。玩具は子どもの発育を向上させ、可能性を伸ばしてくれる。子どもに人格形成を与えてくれる先生でもある。

不幸にも幸の字のあり冬林檎

水月りの (小熊座)

樂園を追放されたアダムとイブは、不幸だったのか、それとも幸福だったのか。幸福に拘るあまりに、ややこしい不幸に陥ることもある。不幸になって、何故悪い。立派に不幸になればいい。――と私に語った人も、今この世にはいない。決して癒えない傷が生る起爆力になることもあるのだろうか。

起し絵のやうに戦がまたしても

大久保 和子 (小熊座)

父は昭和二年生まれで、志願兵として十七年に横須賀の海軍に入隊。戦地には行かず終戦を迎えたが、訓練中の上官のしごきの怖さを酒席で語っていたことが耳に残る。戦争の一断片に過ぎないがその戦後の平和が揺らいでいる、ロシア、ウクライナだけではない負の連鎖、止めてほしいと祈るばかり。

一 句 一 葉

工場の隅の健診冬灯

平山 北舟 (小熊座)

住民や会社の健診の仕事をしている。会社にも色々あって、掲句は、町工場の片隅をカーテンで仕切って、油まみれの工具さんを診たときのものだ。忙しくて医師にかかれない人たちに、最低限の役に立ちたいと思つて続けている。そういう私を支えてくれているのが俳句だ。これからも句友の皆さんと楽しく続けていきたい。

谷音を統べ一枚の朴落葉

土見 敬志郎 (小熊座)

我が家から程近い公園は私の散歩コースである。一週すれば一時間で済む距離であるが、時折、公園の下手の沼辺まで足をのばす事がある。たちまちに深閑とした空気の匂いを満喫する。と同時に草木の呼吸音や鳥や獣たちの声が濃密に脳裏を刺激する。深山幽谷に足を踏み入れた深閑とした別世界に私を誘導するのである。水車小屋の水車が静かに水を弾いて冷気を加速させる。

ナウマン象の声聞こえそう天の川

佐藤 みね (小熊座)

天の川は無数の星が密集して、しろがねの川のように空を横切つて見える。神秘的な造形や想像力をかきたて、七夕伝説と結びついた。澄んで美しい天の川は「生きている」と感じる。悠久の時を想いながら「日本のマンモス」と言われたナウマン象の声が聞こえて来そう。恐竜まで想像させる天の川を今日も見ている。

泪して寒の戻りの富士山仰ぐ

島田 静子

終戦から二、三年もたった頃であろうか、当時沼津は疎開者達のメッカであった。通りを歩けば、よく誰かじぶつかったものである。私もその一人であった。町の人達にとつて、富士山は人を案内する時だけに気付く山でもあった。先日、何十年ぶりか昔の仲間が集つて句会をやるうと言ふことになり、沼津駅に降り立つ。目の前には雪をかぶった富士山があった。大きかった。その時わけもわからない涙が頬を伝った。私は帰れる子になっていた。

檜野 美果子（小熊座）

胎囊を一人と数え良夜なり
産み終えてひとりになりぬ桃の花
退院の土踏まずから春の闇

俳句甲子園に誘ってくださった恩師からの便りをきっかけに俳句づくりを再開しました。子育て中で自分の時間を確保したり新たなことを始めたりすることに難しさを感じていた頃でした。子どもとの散歩の時間が吟行になり、イヤイヤ期でひっくり返る我が子も題材になることに気がきました。小熊座の句会にも参加させていただき、新たな出会いと皆さんの素敵なお句に毎回わくわくしています。

本木 朱実（小熊座）

みちのくの道標として冬暈
大寒や家の何かがぼんと鳴る
守衛室の窓より夜の桜かな

「ブレバト」がきっかけである。十七音の短さ、言いたいことを全部言わないことが、短気で天邪鬼な性格にぴたりときた。入門書を読み漁り、近代俳句概論的な一冊を手に入れ、河北俳壇に投稿し始めた。ネットで偶然知った松島芭蕉祭で、たまたま隣のご婦人が「結社は勉強になるわよ」と言っつて、その場で特選を複数受賞された。それ以来俳句に関してはお誘いを断らないことにしている。

小山 都（青岬）

牡蠣食へば森の記憶の水香る
声の無き鶏舎の屋根の雪煙
蹠が聞く初期微動三月来

ある会の俳句の講座をきっかけに俳句の楽しさを知りました。その後、河北俳壇に毎週投稿しております。それをその時の講座の先生が知り、「青岬」入会へと繋がりました。昨年は「青岬」の新人賞を頂くことができました。
これまで私が生きてきたのは、多くの人や自然と出会う為だったと思えるのです。生きている証を詠みたい。学ぶことがとても楽しい日々となっています。

ようこそ、現俳へ。

新会員紹介
(令和5年6月現在)

木村 菜智（小熊座）

春を待つつかまり立ちのふくらはぎ
初秋の東京つややかなる義足
テレビから銃声早星けるり

高校生の頃、俳句甲子園地方大会参加の誘いを受けましたが、悩んでいる間に定員に達してしまいました。その不全感が私の心の中にあり、七年前、長女の出産を機に俳句を始めました。最初は高校の恩師との文通で指導を受け、今は紙上句会や小熊座の句会に参加するようになりました。慌ただしく過ぎてく日々の中で、日常の些細なことに目を向け、俳句を楽しんでいきたいと思っています。

佐々木 良子（青岬）

この秋思吹き消す為の紅をさす
今日といふ何もせぬ日の室の花
冬童夫が頼りの車椅子

私が俳句を始めた切っ掛けは、十一年前の宮城「いきいき学園」の俳句サークルでした。当時は義母の介護と震災で夫を亡くし、心にぽっかりと穴の空いた時期でした。俳句とは無縁の私でしたが、講師の伊藤俊二先生の「俳句を詠んでいると人生を穏やかに過ごせますよ」の言葉に勇気付けられ、又、お仲間の暖かい励ましも有り今日に致っています。皆様との御縁を大切に楽しく続けて行きたいです。



東北大学片平キャンパス吟行 令和五年五月二十一日(日)

東北大学片平キャンパス吟行記

場所 東北大学片平キャンパス(仙台市青葉区)

(魯迅居跡、大銀杏、魯迅先生像ほか)

句会場 さくらホール会議室(片平キャンパス内)

参加者 二十名(欠席投句二名) 三句出し 五句の互選

(高得点九句)

- 八点 門のなき北門初夏の風の中
- 七点 400トンの鋼塊どんと新樹光
- 六点 学帽の魯迅のまなこ柿若葉
- 五点 大銀杏の年輪を飛ぶ夏の蝶
- 四点 木の書架の阿Q正伝夏きざす
- 四点 薫風やいつか乗らむと竹箒
- 四点 煉瓦棟窓に新樹の溢れけり
- 四点 初夏やいちょう大樹の傘に入る
- 四点 風薫る魯迅の像の太き髭
- 四点 大学構内巨大鋼塊若葉冷
- 魯迅作「故郷」にからむ薄暑光
- 待ち合わせは大学北門紅つつじ
- 赤錆の案内板や桜の実
- 憂ひ隠す青年魯迅若葉風
- 緑蔭にあり大いなる開拓者
- 青葉風に押されキャンパス一周す
- 目印は魯迅胸像風薫る
- 鋼塊の偉大に触れて蟻に触れ
- 建学の気概を今に松の芯
- 囀りにあやされてゐる乳母車
- 仙台医専跡つやつやと桜の実
- 風の香や金属の密林の奥へ

- 坂下 遊馬
- 小関 桂子
- 大久保和子
- 浅川 芳直
- 小田島 渚
- 黒河内玉枝
- 平山 北舟
- 星 節子
- 渡辺誠一郎
- 淺沼眞規子
- 伊澤二三子
- 稲村 茂樹
- 菊池 幸子
- 菊池 修市
- 木山 幸子
- 山下 節子
- 佐々木和子
- 庄子 紅子
- 鈴木 三山
- 丸山千代子
- 丸山みづほ
- 本木 朱実

庄子 紅子

(青岬)

まさに風薫る日に、私達は東北大学片平キャンパスへ吟行に行った。その日は丁度青葉祭りの二日目。日曜日と重なり、かなりの賑わいであるうと予想されたが、片平キャンパスは別世界のような静寂に包まれていた。圧倒的な木々の緑と吹き渡る風の心地よさ。シンボルツリーと言われているメタセコイアの並木、黒松、赤松、樹齢三百年を超える大イチョウ等が悠然と構えている中に、国の登録文化財に指定されている仙台医学専門学校博物館・理化学教室、東北大学正門、本多記念館等十三もの木造建築や煉瓦造りの建物が佇んでいる。ゆっくり歩いていくと東北帝国大学、仙台医学専門学校、宮城県女子専門学校等の記念碑も見ることが出来、又、魯迅の像にも出会う事が出来るのだ。私達二十名の一行は思い思いに、そしてグループになりつつ、午後からの句会に備えていった。誰かが足元に咲いている花の名前を聞くと、スマートフォンで写真を撮り検索して教えてくれたり、その花についての話を聞かせてもらえるのも吟行のいいところでもあるのではない





かと思う。私はひとり吟行もたまにするが、でもやはり誰かがいたほうが楽しいし刺激になることが多い。誰かが何気なく言った一言が句のヒントになることもあるし、なにより人の輪が広がることが嬉しい。

午前十時半に北門に集合してから一時間くらいあちこち歩き、片平キャンパス内にある句会場のさくらホールで各自昼食をした後、句会開始となった。さくらホールの玄関先にそれは見事な枝ぶりの桜の巨木があった。葉桜になっていたが、桜の季節はさぞ見応えのある景色を見せてくれたのであろう。来年は是非とも見てみたいと思った。

句会は東北大学大学院准教授の木山幸子先生にもご参加いただき、二十名で行なわれ、二名が欠席投句された。三句出句し、五句の選句進行役は坂下遊馬さん、披講は浅川芳直さん、点盛りは丸山みづほさん。質問が出た時は、会長の渡辺誠一郎さんに答えていただき、たくさんの事を勉強させていただいた。句会後の懇親会も楽しく、いい一日であった。

小田島渚『羽化の街』（現代俳句協会）

命の無限に触れる

成田 一子
(滝)

『羽化の街』は第三十九回兜太現代俳句新人賞を受賞した小田島渚の第一句集。受賞作「真空の円」は選出して収められている。細部に気を配った、編年体によらない構成である。

〈歪みたる街をまつすぐ春日傘〉 〈髪洗ふたび三月の雪が降る〉 〈白南風や軋む音して羽化の街〉といった東日本大震災を題材としたと思われる作品は、被災した我々の胸に強く響く。また〈あをそらの果実挽ぐかに氷柱折る〉〈眼に海の深さを戻す冷し馬〉〈冬の森われを異物のやうに吐く〉といった印象鮮明な句は、俳句作品としての完成度が高く、多くの人に向けた共感性及び普遍性を獲得する確かさに満ちている。

これらの句の魅力を超えて、小田島渚の真骨頂はやはり読者の想像力を存分に試すような、象徴と寓意の世界にある。

巨大蝸の白夜を歩く針のごと

「クラークン」はノルウェーに伝わる伝説の蝸の怪物。ヴィクトル・ユーゴーの小説にも登場する。想像上の巨大蝸が白夜を歩く、という構図からしてもうすでにシュールレアリスムの一枚の絵画を見るようであるが、その歩行が「針のごと」という比喩に驚く。針から連想されるメタリックで冷たい緊張感、言葉と言葉を緊密に結びつけてひとつの世界を構築させる手法は、軽いシヨックとともに、詩を読むという純粹な快感を読者に存分に味わわせてくれる。

「有限の命を持つ者の無限に触れたいという欲望がある」と、小田島は言葉に向き合う動機をその「あとがき」に記す。

終はる永遠 真円の虹がてのひら

渚的終末感とも言おうか。ただ、根本には命の循環を希求する、大いなる明るさがあるように感じる。

みなかみに逝きし獣の骨芽吹く

撃たれたる記憶毛皮の全面に

命の無限に触れたいと希求する彼女の魂の一端に触れられる句が、他にもたくさん収録されている。読み返すたび、発見のある句集である。

慶祝

第四十七回宮城県俳句賞準賞

平山 北舟

第四十七回宮城県俳句賞準賞

坂下 遊馬

研修会案内

日時 令和五年七月三十日(日) 午後一時十五分

場所 青葉区中央市民センター 第四会議室

仙台市青葉区一番町二丁目一番四号

電話〇二二―二二三―二五―一六

講演 渡辺 誠一郎氏「『俳句旅枕―みちの奥へ』の思い」

参加費 千円 講演後、席題二句出し句会

懇親会費 三千五百円

お申込みは七月三十一日まで、事務局坂下に葉書、電話、
ショートメール、メールいずれも可。

携帯電話番号〇九〇―二九八二―七二三〇

メールアドレス rakkrakys88@yahoo.co.jp

第三十七回現代俳句東北大会

日時 令和五年九月十七日(日) 午後一時

場所 コラッセふくしま

福島市三河南町一―二十

電話〇二四―五二五―四〇八九

記念講演 神野 紗希氏「生きた俳句、生きていく俳句」

当日句参加料 五百円(但し学生無料)、懇親会費五千円

編集室から

◆コロナ禍明けで、総会、吟行と開催することができ、急速にかつての日常に戻ってきた。今年の現代俳句東北大会は福島市で開催予定。当日もぜひ多くの方のご参加をお願い申し上げます。

◆四十五号から扉の写真を担当しているが、「Photo俳句」として写真のイメージから句を作っていたといたこととした。写真は、世界を切り取り、言外の想いやイメージを伝えるところが俳句と似ていると思う。東京都写真美術館で観た荒木経惟の「センチメンタルな旅」は、実際の新婚旅行を撮影したものだが、日常を無意識に演じることによつて生まれるリアリティが、煩惱と同じ数の一〇八枚の写真から溢れ出ていた。(渚)

表紙の写真／仙台文学館(仙台市)。台原森林公園に併設し、常設展には佐藤鬼房など県ゆかりの俳人のコーナーがある。

photo俳句

夏空へはばたく文学少年も

佐藤 成之

発行所 宮城県現代俳句協会 令和五年七月一日発行
発行人 渡辺誠一郎 編集部 坂下遊馬、小田島渚
事務局 千九八九―二三五一 宮城県亘理郡亘理町北新町二―二三
坂下遊馬 方

電話 〇二三―三三四―一七八一

メールアドレス miyagikenghn@gmail.com